

1 目標達成のためのシナリオづくり (Plan)

(1) 管理職の明確な経営計画をしっかりと示す。

学校等の運営や組織体制を今一度見直し、教職員に対して経営計画を具体的に示すとともに、教職員の個々の役割についても明確に示します。

(1) 学校等の経営計画

校是
教育基本方針・教育重点目標

Plan

(2) 子どもたちの現状把握を行う。

- ア 直接的な把握 = 子どもたち一人一人の発達を把握します。
- イ 間接的な把握 = 教職員の感じている子どもたちの長所や短所を言葉にして可視化します。
- ウ 定量的な把握 = 様々なアンケート調査による定量的な把握により、個別、全体の傾向を把握します。
(数値化します)

(2) 子どもたちの現状把握

職員会・教科会・校務分掌会・
校内研修などで情報を共有

Plan

(3) 子どもたちの目指す姿（目標）を明確にする。

- ア 内部統合の視点 = 既存の学校教育目標や経営目標などの目指す理念や方向性を基に検討します。
- イ 外部環境の視点 = 「目指す姿」は教職員の願いだけではなく、社会からの要請も考慮される必要があります。
- ウ 子どもたちの目指すべき姿を言語化する際は、子どもたちの現状、育成すべき能力、卒園・卒業時点の状態が表現されていることが大切です。
- エ 学校教育活動全体を通してキャリア教育を推進するためには、管理職がキャリア教育を十分認識し、学校等の経営計画の中核とします。

(3) 目指す姿を明確にする

内部からの視点
外部からの視点

Plan

(4) 全体計画・指導計画を作成する。

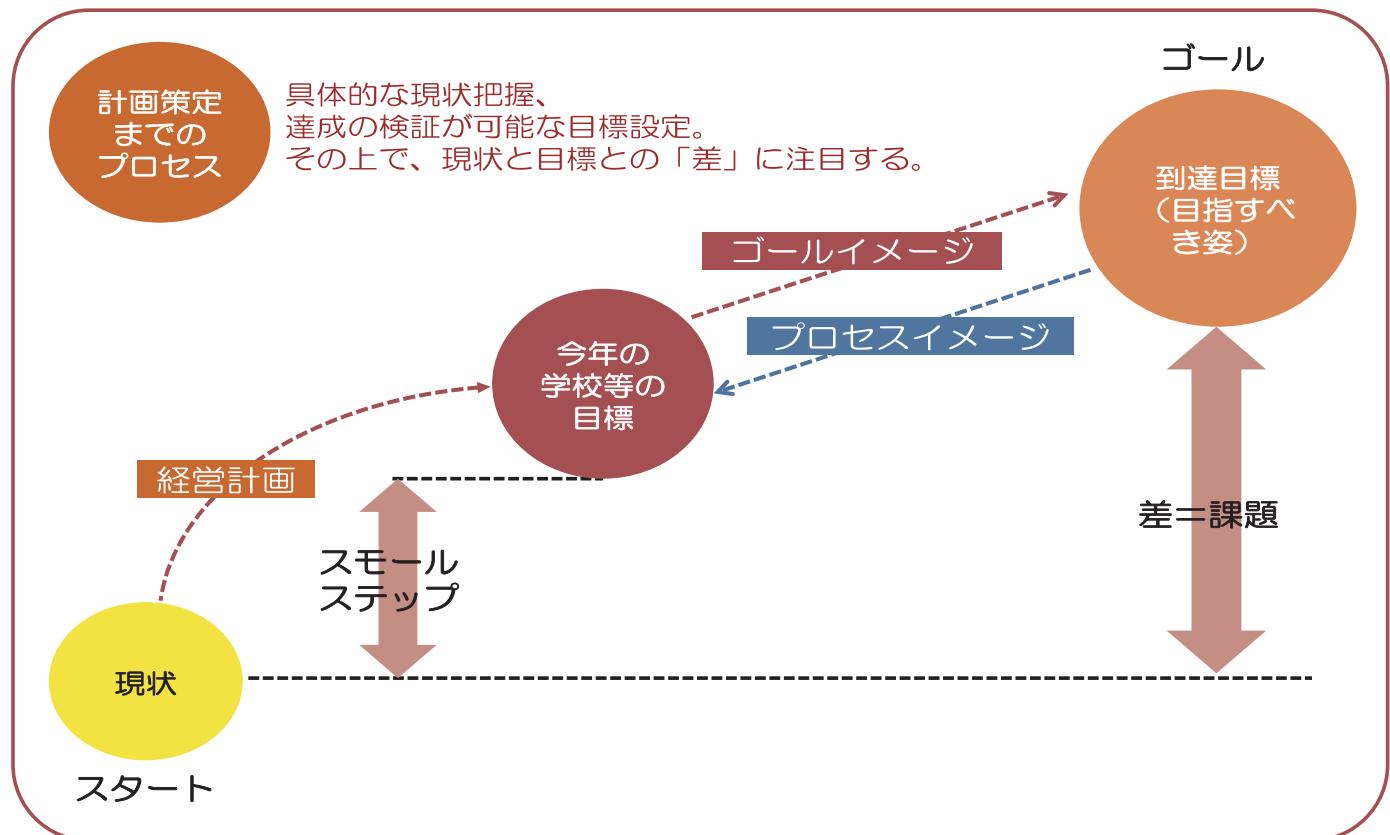
- ア 目標達成のための全体計画や年間指導計画を作成し、具体的手立てをしっかりと示します。（数値目標をあげるとよい）
- イ 計画については、短期的なものでなく中・長期的なものであることが望まれます。

(4) 全体計画・指導計画の作成

目標と現状との課題を明確に
し、プランを作成する

Plan

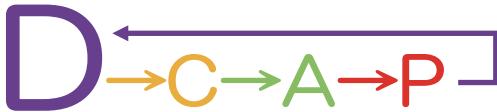
子どもたちの実態や学校等の特色、地域の実状など様々な視点から現状を把握し、目指すべき目標を明確にし、目標達成のための課題を設定しましょう。



※教職員全体で共通理解を図るための、会議や研修会の在り方が重要となります。



平成23年度 キャリア教育連絡協議会（情報交換グループワーク）



2 教育活動全体を通したキャリア教育の実践（Do）

学校教育という限られた期間で実践することを精選する必要があります。「今」「この学校等で」「子どもたちに」といった視点から、子どもたちの能力育成を図っていく必要があります。やるべきことに優先順位をもつことが大切です。

(1) 子どもたちの能力育成

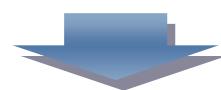
（目指す姿、身に付けさせたい力を明確化する）

- ア 人間関係形成・社会形成能力の育成
職場見学、就業体験 など
- イ 課題対応能力・キャリアプランニング能力の育成
進路講演会、オープンキャンパスへの参加 など
- ウ 自己理解・自己管理能力の育成
自己肯定感をもたせる取り組みとしてボランティア活動や部活動への参加 など

(2) 教職員の指導力向上

キャリア教育は、教科指導やホームルーム、総合的な学習の時間や特別活動などのすべての教育活動において実践されなければなりません。

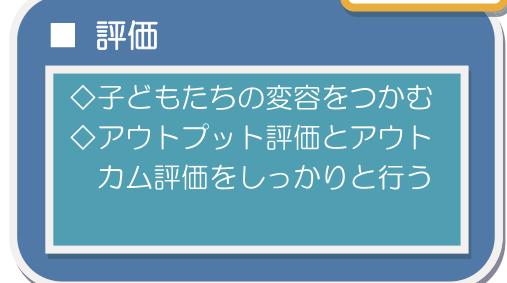
- ア 日常の教育活動においては今、学んでいることが社会でどのような意義をもつのか、どのように活用されるのかに触れ、指導する必要があります。
- イ 子どもたちの理解や的確な進路アドバイスを行うため、教職員のキャリアカウンセリング能力を向上させましょう。＝キャリアカウンセリングの園内・校内研修、外部研修会への参加 など



3 次につながる評価の実施（Check）

キャリア教育に関する評価（Check）とは、あらかじめ設定された計画（Plan）に基づく実行（Do）がどのような成果を上げたかを検証することです。

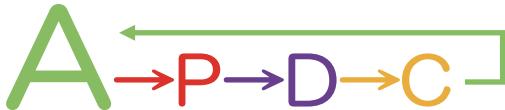
- ◇ 子どもたちの変容を、一定の基準に基づいて捉えた変化を明確に示します。
- ◇ アウトプット評価とアウトカム評価をしっかり行いましょう。
※「実施したか」「何日実施したか」という評価が**アウトプット評価**、重要課題についてどれだけ解決したか、どの程度変わったのかなどの評価が**アウトカム評価**です。
- ◇ 教職員による学期ごとの反省会（中間評価）、学校評価アンケート、開かれた学校づくり推進委員会などで評価しましょう。
- ◇ 子どもたちの変容を評価する場合は、年度の最初と最後のアンケートやポートフォリオを活用した評価なども考えられます。



Check

■ 評価

- ◇ 子どもたちの変容をつかむ
- ◇ アウトプット評価とアウトカム評価をしっかりと行う



4 教職員のベクトルをあわせるための結果の活用 (Action)

評価によって子どもたちの変容が明らかにならなければ、その評価を受け次へのステップに向けた改善策の立案が必要です。

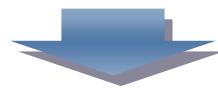
【6つの視点での活用法】

- ◇指導計画の改定に生かす
 - ◇運営組織の改善に生かす
 - ◇個別的な支援・指導に生かす
 - ◇園内・校内研修に生かす
 - ◇校種間等連携に生かす
 - ◇地域・社会連携に生かす
- ※目標に対して不足している能力や資質を明らかにし、どのような方法でその能力を向上させるのか、そのためにはどのような活動を強化する必要があるのかを検討します。

Action

■ 結果の活用

- ◇評価を改善につなげる
- ◇計画の再構築、指導方法の改善、園内・校内組織の見直しなど



5 新たな目標達成に向かってのシナリオづくり (Plan)

過去の取り組みが検証され、改善策が検討されたら、次へのステップに向けてのシナリオを作成します。良いものは更に良くするための計画を立案します。廃止すべきことは、思い切って廃止する決断力が必要です。

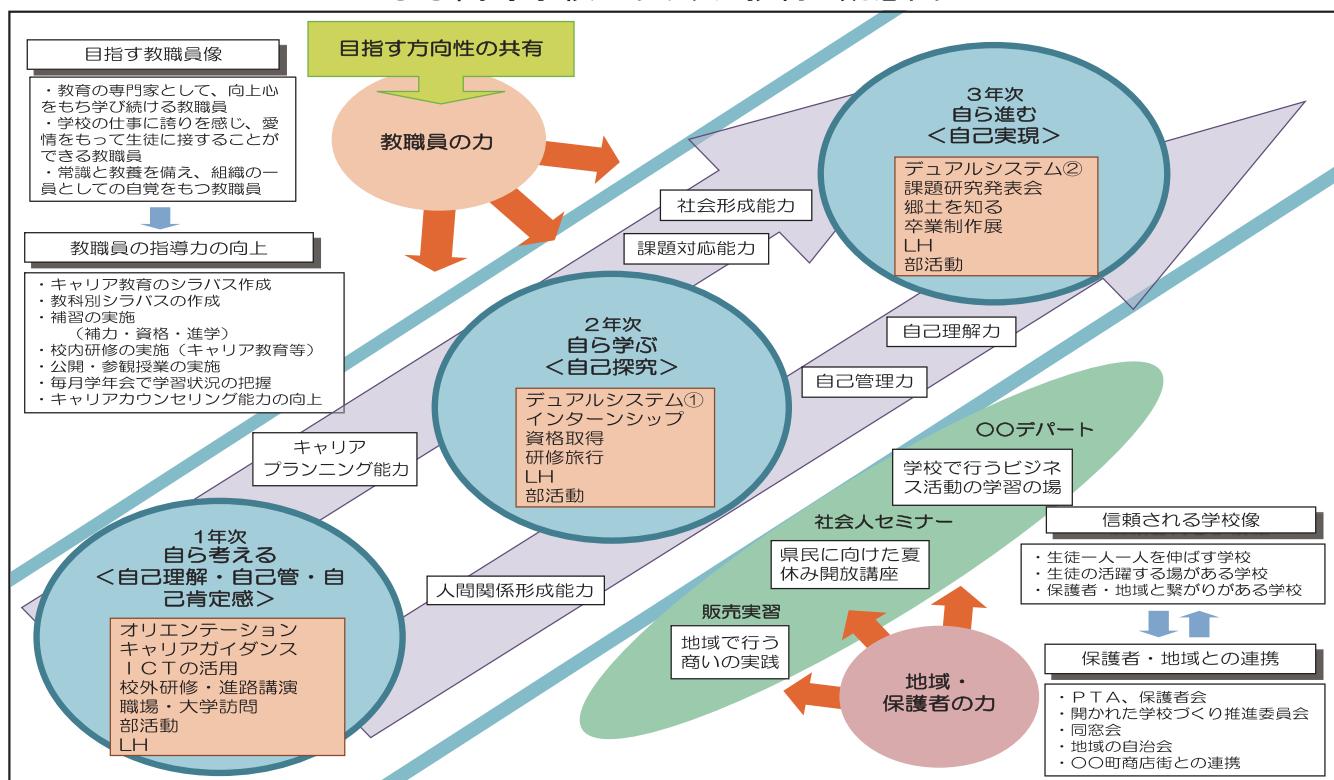
全ては子どもたちの未来のために、思い切った改革が必要です。

Plan

■ 次へのステップ

- ◇新たな目標に向けたシナリオづくりを行う

○○高等学校 キャリア教育 概念図



教職員や外部に対して、目指す姿を、分かりやすい形で伝える。

【参考例】平成24年度から小・中学校で取り組む学校改善プランの進捗管理表 R=調査、P=計画、D=実行、C=評価、A=改善



平成24年度 学校改善プラン					教職員数		学級数		()	児童・生徒数	()	学校名	立		学校			
校長		教頭		主幹 教諭		指導 教諭		教務 主任		研究 主任		道徳教育 推進教師		学校図書 館担当		体育 主任		
学校教育目標												研究主題						
1 平成24年4月当初の学校の状況(課題は何か)											2 具体的な到達目標(あるべき姿、望ましい状態)	中間検証時の状況 及び 考察				平成24年度末の検証(到達状況及び次年度に向けて)		
<p>知 R</p> <p>①23年度到達度把握調査(1年生)の結果…全国を100とした場合、国語-4.5p、数学-7.3p、理科-10.8p ②23年度全国調査(3年生)の結果…県平均より、国語(+1.5p)、数学(-2p) ③全国調査の生徒質問紙での肯定群…「家で苦手な教科の勉強をする」51.8%、「テストで間違えたところを家で勉強する」46.2% ④学校評価(23年11月実施)の生徒の回答結果…「授業がよくわかる」67.2%、「自分の学力がのびた」72.1%、「家で宿題や予習をしている」93.8%</p> <p>徳 C</p> <p><読書>全国調査の生徒質問紙での肯定群 ①「読書が好き」71%、②「学校図書館を活用した授業の計画的実施率」70%、③「家や図書館で普段(月～金)の読書時間が10分以上の割合」40.3% <道徳>道徳アンケートの結果 ①「道徳の時間の勉強は好き」95.3%、②「自分にはよいところがあると思う」83.8%、③「学校のきまりを守っている」86.5%</p> <p>体 P</p> <p><23年度高知県体力・運動能力、運動習慣等調査の結果> ①高知県平均を50とした場合、体力合計点(男子-2.5p、女子-4.8p)、長座体前屈の記録(男子-6.5p、女子-9.5p) ②「運動やスポーツが好き」男子50.2%、女子38.5%、「毎日運動をする」男子70.2%、女子35.4%、「毎日1時間以上運動をする」男子60.2%、女子27.9% ③「体育の授業でできるようになった」男子30.6%、女子38.0% ④「家の人に週に1回以上運動の話をすると」男子40.2%、女子24.2%</p>											A B C D	C	A B C D	C A				
3 「2」の目標を達成するための具体的な取組(項目別) ※各項目内の枠の区切り方や「スケジュール」の時期の示し方は、適宜設定してください。											スケジュール ※いつ、何を行つかの目安を記入してください。	評価指標に対する到達状況及びその理由、その要因				次年度に向けての重点的な取組		
	主な取組内容	取組内容の評価指標	4月	5月	6月	7月	8月	中間検証(改善のために行う今後の重点)	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
学力向上のための組織的な校内研修等の取組 【研究推進委員会】	・新学習指導要領に基づき、各教科・領域の「全体計画」「年間指導計画」「教科等経営案」に具備すべき内容を記載し、教育活動に反映させる。 ・地域、保護者、生徒に目指す学校像・授業像を明確に示す。	・新学習指導要領に基づき、「教育計画」「教科等経営案」に具備すべき内容の記載100% ・教科等の年間指導計画に「言語活動の工夫」の位置付け100% ・学校評価の「授業」「学級経営」「家庭学習」の項目で肯定的評価を教職員と生徒は90%、地域は80%以上	P	「教育計画」「教科等経営案」の作成及び共通確認 ・各教科等の年間指導計画の見直し	教育活動実施 後の検証		A B C D	生徒会で説明、評価委員会の学校訪問開始	地区懇談会で説明	学校評議会で説明	評価委員会で説明	評価委員会で説明	評価委員会で説明	評価委員会で説明	評価委員会で説明	25年度の経営学校プラン案の確認	C A	C A
子どもにわかる授業づくり 【授業づくり部会】	・「授業づくりのスタンダード」に基づいた授業展開 ・国語学習シートや活用事例集、数学単元テスト、数学シート、理科思考力問題集、英語ライティングシート類の活用 ・思考力・判断力・表現力を育てる授業研究の実施…各自1回(全校研、学年研) ・学習指導要領に基づいた評価規準入りの指導案100%	・毎時間のねらい提示100%(H23:50%) ・授業評価表(生徒、参観者の肯定群90%以上 ・県版のシート類の活用80%以上(H23: 60%) ・事前研(模擬授業を含む)の実施100%(H23: 60%) ・学習指導要領に基づいた評価規準入りの指導案100%	P	授業づくりのスタンダード「言語活動の充実」について確認 事前研・授業評価	全般授業研(3年国語)	学年授業研(1年 数学)	評価指標の項目について検証	D	全国学力・学習状況調査	学テ問題を全員で分析結果をもとに	事前研・授業評価	学力調査問題・県版シート活用を授業に組み入れる	D	C A	C A			
予習・復習の質と量を高める取組 【家庭学習部会・授業づくり部会・生徒会】	・共通課題(国語・英語・数学)の提出を徹底 ・「家庭学習の手引き」をもとに、授業と連動した学習課題を設定 ・生徒会や家庭と連携して学習習慣の改善を図る取組(強化月間、週間)を行う。	・共通課題の提出率を95%以上 ・テストで間違えたところや苦手な教科の予習、復習をする生徒の割合60%以上(H23: 42.5%) ・1時間以上の家庭学習90%(23年度: 72.5%)以上	P	ナリエンティヨン(学習の手引きの活用)について 予習・授業・復習のサイクル	夏休み家庭学習について	中間検証・改善策の検討(シート類の活用率)	D	夏休みの家庭学習の集約	冬休みの家庭学習について	予習・授業・復習のサイクル	学習の手引き、家庭学習の内容の検討	D	C A	C A				
読書活動の推進 【学校図書館担当】	・計画的な図書の利用と図書を活用した授業の実施(各教科年間2回程度図書を活用した授業の実施)	・年間を通して図書資料を活用した授業実践(各教科年間2回以上実施)	P	図書館活用について確認 授業研究	教員の図書活用研修Ⅰ	ショートコメントコンテスト応募作品の作成	学校図書環境整備作業	A B C D	購入図書の選定	学力調査データ分析	読書週間の取組	成果と課題の確認	教員の図書活用研修II	評価指標の最終検証	本年度の総括と次年度の方向性の確認	A B C D	A B C D	
道徳教育の推進 【道徳教育推進教師】	・全教員が授業研究(道徳・学級活動)を行い、授業評価表で検証 ・道徳参観日の実施や道徳だよりの発行による家庭・地域との連携	・道徳の時間の授業力の向上(授業力診断平均: 3.5以上) ・参観日に保護者の参加率80%(H23: 76%) ・学校評価の「道徳教育の取組」における家庭・地域の肯定評価80%	P	交長の方針説明 道徳の指導計画の作成	全般授業研(道徳)	学年授業研(道徳)	学年授業研(学活)	評価指標の中間検証 道徳の指導計画の見直し	A B C D	授業研究	図書活用全般研Ⅰ	評価指標の中間検証	図書活用全般研Ⅱ	図書活用全般研Ⅲ	生徒の意識調査、授業力診断、学校評価の分析	意識調査、授業力診断、学校評価の分析	道徳の指導計画の改善、道徳授業スタンダードの確立	A B C D
体育・体育的活動の充実 【体育部会】	Action ・体育に関する授業研・研修会の実施 ・授業における外部指導者の積極的活用 ・年間を通して体育集会の実施 Knowledge ・健康に関する参観日(講演会)の実施 ・健康・体力つくりだよりの発行(月1回) ・親子運動教室の開催(各学年1回) Beauty ・朝食摂取率85%(23年度: 72.5%)、8時間以上の睡眠70%(23年度: 57.5%)	Action ・授業研及び実技研修会後の教員意識調査「参考になつた」80% ・外部指導者を活用した授業「できないことができた」80% ・毎週水曜日体育集会(体育委員会)「集会が楽しい」80% Knowledge ・参観日(10月第2土曜日)保護者の参加率80% ・健康・体力つくりだよりの発行(10号)返信率30% ・親子運動教室(6回開催)保護者の参加率80% Beauty ・朝食摂取率85%(23年度: 72.5%)、8時間以上の睡眠70%(23年度: 57.5%)	P	体力テスト研修会(高)(水泳)	新体力テストの実施(1~6年)	外指導者(水泳)	O体力・運動能力、運動習慣等調査結果の検証	A B C D	授業研(低)(器械)	外部指導者(器械)	研修会(わいび)	研修会(中)	授業研(中)	O体育年間指導計画の見直し	A B C D	A B C D		
運動習慣の定着 【生活改善部会】	早ね・早起き・朝ごはん運動の推進 ・生活習慣調査の実施・分析・広報活動	生活習慣強化週間(生活意識調査実施)	P	TA会にて説明 保護者の啓発	広報紙発行1号 親子運動教室(2年)	広報紙発行2号 親子運動教室(1年)	広報紙発行3号 親子運動教室(3年)	広報紙発行4号 親子運動教室(4年)	広報紙発行5号 親子運動教室(5年)	健康に広報紙発行6号 親子運動教室(3年)	広報紙発行7号 親子運動教室(4年)	広報紙発行8号 親子運動教室(6年)	広報紙発行9号 親子運動教室(5年)	広報紙発行10号 親子運動教室(6年)	O年度の総括と来年度の方向性の確認 O生活意識調査の結果集約	A B C D	A B C D	